

「脳卒中の後遺症 痙縮 (Spasticity) 」について」

～ボツリヌス療法の有用性～

脳神経外科、リハビリ科 副院長 神里 信夫

脳卒中に罹患してしまうと、何らかの身体的後遺症が残ってしまいます。なかでも片麻痺は日常生活に支障をきたしてしまいます。さらに痙縮が加わるとさらに辛くなります。

この痙縮とは麻痺した筋肉が過度に緊張しすぎてしまう状態です。麻痺した手足がさらにこわばり、動かし辛くなってしまいます。上肢の痙縮では、過度の肩関節内転により、腋が開かなくなったり、肘関節が屈曲外旋し着替えに難渋したりします。手指では、握りこぶし状態で手指洗いが困難になります。下肢では、足趾が過剰に屈曲し槌趾（ついし、Hammer Toe）になり、うまく靴やサンダルが履けず、また疼痛のため歩行困難な状態になり外出を嫌がったりします。両側の麻痺になると、股関節が内転し、両膝が交差してしまい（ハサミ状交差）、介護困難・難渋をきたしたりします（清拭やオムツ交換時など）。

治療には、中枢性筋弛緩薬が用いられるが、効果が得られなかったり、少なかったりします。次の手段として、“ボトックス注射神経Block療法、ボツリヌス療法”があります。脳卒中治療ガイドラインでもグレードAで推奨されている治療法であります。当院でも数年前から開始し、小生がリハビリスタッフと共に施行してきました。かなり効果があり、患者本人、家人には喜ばれています。今回リハビリ専門医が毎週担当してくれることになりました。麻痺した上肢、下肢のこわばり、ツッパリで困っている患者さんは、ぜひ一度受診し、相談してほしいです。ただし一度の注射の効果は約3か月間であり、繰り返し受けて効果が長くなるので、諦めずにぜひ継続して受けていただきたい治療法であります。

下記の症状

- ①肩や肘の関節が固まり、腋が広がらず着替えや入浴に難渋している場合。
- ②手首や肘が曲がったままで、物が掴めない。
- ③手指が曲がったままで、手洗いや爪切りが困難。（握りこぶし手）
- ④つま先が曲がりっぱなしで、歩行時痛い。（槌趾位、Hammer Toe）
- ⑤つま先がのびきり、踵がつかずバランスを崩しやすい。（尖足位）

など お困りの方、一度診察を受けてください。

（月曜日午後、予約制です。）